



担い手育成を強化

～技術や経営支援～

当JAでは、将来の地域農業を支える、担い手育成に力を入れる。
JAの自己改革の一環として、29年度は新たに「ごぼう」「ネギ」「ピーマン」の3品目で育成塾を開講、さらに9月から経営塾がスタートする。農業後継者、新規就農者に対する栽培技術から経営面まで支援する。今回の特集では、育成塾・経営塾について紹介します。



作物別	開講年	塾生数(人)
ながいも育成塾	平成 23年	29
次世代にんにく塾	平成 25年	32
ごぼう職人育成塾	平成 29年	15
ねぎ育成塾	平成 29年	21
ピーマン塾	平成 29年	6

※塾生は随時募集しています。



◆研修内容・スケジュール
・座学による講習会、達人の畑で現地講習会、先進地研修、収量調査による塾生ごとの評価・指導等

◆育成塾は「こんな場」です。
・若手農家、後継者の情報交換等による問題の共有化、仲間づくり

◆育成塾に参加して得られる成果
・10アール収量のアップ、品質の向上等

◆担い手育成塾とは
・担い手、若手生産者が将来、安定した経営ができるよう、農業経営の柱となる作物別の技術習得をめざす。栽培の達人らによる技術指導、現地講習会等を通じて地域全体の技術レベルの底上げを図る。



次世代にんにく塾の塾生にインタビュー

・高品質生産を求めて入塾。病気になりにくい畑作り、管理のノウハウを学びたかった。入塾して収穫時期の見極めができるようになり、また畑の水はけ、根張りを良くする方法も学び高品質・収量アップにつながっていると思う。

40代男性、入塾4年目、
にんにく栽培歴10年、作付面積90アール

ごぼう職人育成塾の塾生にインタビュー

・親の勧めで今年4月に入塾。今まで親の指示通りに動いていたが、初回の座学講習会で「このために、これをやる」「何で、この時期にこれをやるのか」を分かりやすく解説してくれて理解できた。今後は、早めの防除対策など管理作業を重点に学んでいきたい。

30代男性、ごぼう栽培歴3年
作付面積4.5ヘクタール

ながいも達人から学ぶ 塾生としての 心得



ここが大事!

- ★ 情熱、プライドを持って何事にも取り組むこと。
 - ★ 5年先、10年先を見据えて仕事をする。
 - ★ 気象条件に左右されない圃場づくりが大事
 - ★ 日誌をきちんとつけて、5年前・10年前を振り返りながら、現状の仕事を見る。
(スマホでの写真記録とか)
 - ★ 聞くことも大切だが、自分で考え行動し、成功失敗して実際に学んで欲しい。
 - ★ 常に圃場を観察し状態を見て、何か気づいたらすぐ行動すること。
- 塾生に期待すること
- ★ 良いものを生産すれば、収穫も楽しい。
好奇心を持って前向きに仕事をして欲しい。

育成塾の現状と 課題改善に向けて

作物別の育成塾は年間、複数回の研修を行っているが、繁忙期前の開催や栽培上のポイントとなる時期での開催となるような工夫が必要と感じている。また、塾生の技術・知識に差があるため、技術・知識に応じたレベル毎の開催等により、レベルの高位平準化を図りたい。また、農業経営のノウハウを学ぶ育成塾の新たな開講により、優れた経営感覚を持つ農業者の育成に取り組む。

(指導やさい部長 馬場義満)

NEW 農業経営のノウハウ学びませんか!

マネジメントスクール開講
参加者募集中!

主催：JA十和田おいらせ
対象者：青年部及び生産組織の若手農業者及び農業後継者

募集人員：若干名
講師：普及振興室 他
事務局：指導やさい部指導課

1. 経営者としての心構え

- ① 事業としての農業
- ② 経営理念、ビジョン、経営戦略
- ③ 経営資源の確保と活用

2. 農産物販売

- ① 販路開拓のメリット・デメリット
- ② 消費者ニーズとマーケティング
- ③ 農産物の高付加価値化

3. 経営管理

- ① 簿記帳簿と財務管理
- ② 経営点検と分析
- ③ 原価計算と損益分岐点
- ④ 投資の考え方
- ⑤ 補助事業と制度資金
- ⑥ 労務管理

◆申し込み・お問い合わせ等は、指導やさい部指導課(担当:杉山まで)

直通 (TEL.0176-23-0339)

※初回講習会は9月上旬を予定

各育成塾に関するお問い合わせ、申し込み等は、支店・事業所の営農担当、又は、本店指導やさい部(指導課)まで。